

講義名	地域再生論			授業形態	
担当教員	楠本 寛	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要
 卦が国は、人口減少と少子高齢化の急速な進展や産業構造の変化等の社会経済情勢の大きな転換期にあり、住民は多様な地域課題に直面している。地方分権、地域主権への構造改革も確実に進展しているが、より自律的な地域経営について、新しい手法の確立が求められている。本講義では、現在の主要な地域課題を概観したうえで、地域課題とはそれぞれの政策分野の枠を超えた横断的な問題であることを理解する。そのうえで、その総合的・創造的な解決策について考える。今後は、住民・企業、NPO等も公的サービスを担う社会に変化していくことから、卒業後に公務員職には進まない学生にとっても、これからの社会経済システムについて理解を深め、将来、仕事や生活の面で役立つ講義としたい。

到達目標
 1. 地域再生の背景や地域再生の取り組みに関する諸事例を通じ、地域再生とは何かを理解することができるようになる。
 2. 地域再生の問題の捉え方やその基礎知識を学ぶ意義を理解し、その基本的な知識を習得することができるようになる。
 3. これらの成果に基づき、地域課題の機会を的確に表現することができるようになる。
 4. 地域再生の時事問題に対して自分の意見を述べることができるようになる。

提出課題
 授業内容に関するレポート課題を課す。実施方法（レポート提出/授業時間内における演習）はその都度指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
 次の授業の際に、全体的な講評や解説を行う。

評価の基準
 前半・後半の2回に分けて、授業時間内に確認テストを実施する。確認テストの成績を70点、平常点（レポート課題など）を30点、合計100点満点で評価する。

履修にあたっての注意・助言他
 積み上げ型の授業であり、毎回出席することが重要である。授業内容は日常生活に関連するものが多く、レポート課題などに取組みながらその内容をきちんと理解してもらいたい。そのために、授業への出席と積極的な学習態度を奨励する。公務員を志望する学生には、履修することを推奨する。定期試験は実施しない。

教科書
 .使用しない。

参考図書
 .なし。

その他
 授業の際にプリントを配布する。参考文献があれば、授業時間に紹介する。

- 授業計画**
- ガイダンス、地域再生とは
 - 地域再生の社会的背景（1）
 - 地域再生の社会的背景（2）
 - 地域再生に向けた国の取り組み
 - 地方自治体の役割
 - 公共交通の再生
 - コンパクトシティと小さな拠点
 - 前半部のまとめと確認テスト
 - 中心街地の活性化
 - オールタウンの再生
 - まちの経済の見方：捉え方
 - 地域再生の事例（1）全国
 - 地域再生の事例（2）兵庫県
 - 地域再生の事例（3）神戸市
 - 後半部のまとめと確認テスト

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 授業の内容はできる限り授業中に理解することが望ましいが、授業の内容を確認し理解を深めることを目的としたレポート課題を課す。このため、授業内容の復習とレポート作成に週2時間程度を充てる必要がある。また「地域再生」は、日常生活に身近なところで行われている。毎回の講義で学んだ知識をもとに、週2時間程度、関心をもって自分の周りの地域再生事例に目を向け、講義内容の理解を深めることを期待する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 本学のディプロマ・ポリシーに記載された「経済学部・経済学科の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力」のうち、次の項目に関連する。人間、社会、自然に関するこれまでの学問的取組の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる。経済学を基礎として、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用
 実務経験あり 現場の具体例などを授業の中で紹介する。

備考